

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

### ■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

**▲注意** …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

### ▲注意

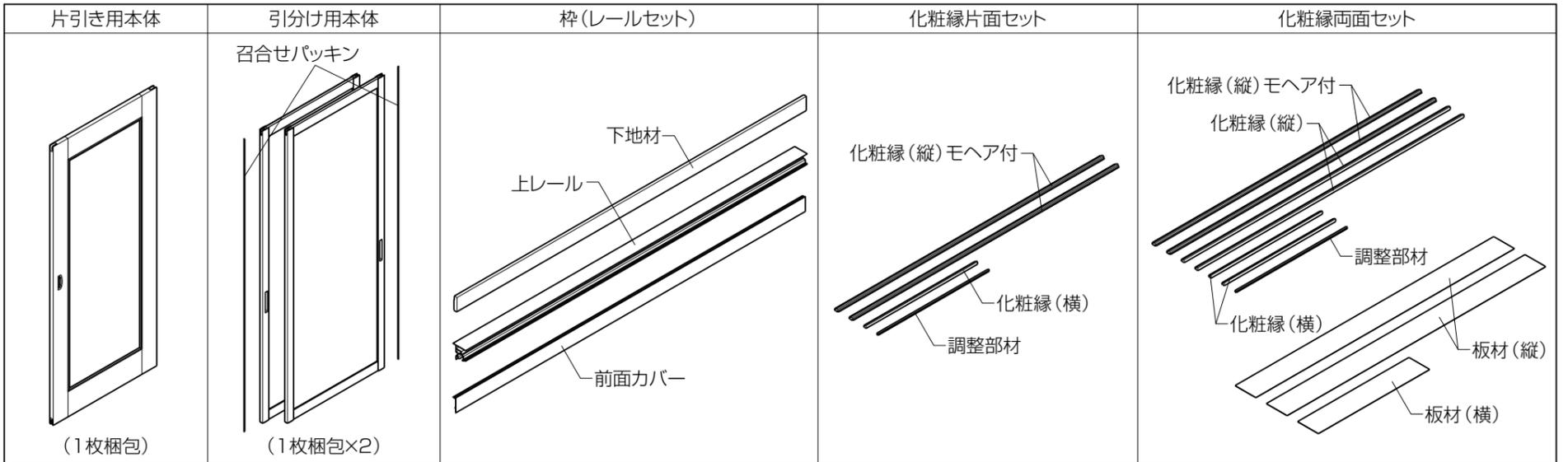
- 商品が落下するおそれがありますので、下記事項をお守りください。
  - ・取付け前に補強材(躯体)の位置を確認してください。取付け位置へ補強材がない場合は、必ず入れてください。
  - ・ねじは指定のものを指定本数使用して固定してください。
  - ・石こうボードなどで補強材(躯体)が見えない場合は、工務店さまに補強材位置および固定方法を確認してください。さらに針刺しなどでねじ止め位置に補強材の中心があることを確認してください。
  - ・リフォームなどの場合、補強材(躯体)位置が石こうボードで確認できない場合は、石こうボードなどをはがして補強材位置を確認してください。
  - ・補強材(躯体)は硬い木材で、虫食いやくされのない24×70mm以上のものを使用し、柱・間柱などに必ず固定してください。
  - ・下地材は、必ず下穴をあけてから、ねじを固定してください。
  - ・下地材の下穴は、端部から50mmの位置に1箇所ずつあけ、中間部のピッチは、455mm以下としてください。
  - ・吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押し込んでください。押し込み後、引張って抜けないことを確認してください。押し込みが足りないと、本体が落下するおそれがあります。
  - ・石こうボードの表側には、補強材(躯体)は取付けしないでください。
  - ・本体へは、もたれ掛からないでください。本体が外れ、転倒してケガの原因になります。

### ■取付け上のおお願い

- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれる場合があります。
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付けるときは、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は「F☆☆☆☆」又は、ノンホルムタイプを使用してください。
- 造作材・建具枠の下地材は、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- かい木には、合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に必ず防水処理をしてください。
- 本製品は上吊り方式を採用しています。はり(まぐさ)は、強度を要するため、断面寸法105×180mm以上を使用してください。上レールの垂れ下がりの原因になります。
- ガイドピンは、取付け順序「**③**ガイドピンの取付け」通りに正確な位置に取付けてください。本体の開閉操作に支障が出る原因になります。
- 本体にガムテープ・クラフトテープなどの粘着力の強いものを直接張らないでください。養生の際は、マスキングテープなど粘着力の弱いものを使用してください。
- ガイドピンと下部ストッパーは本体吊込み時に取付けますので、枠の取付け後大切に保管してください。

## ■部材・部品一覧表

※枠はロックダウン、本体は完成品です。



## ■枠セット一覧表

名称		片引き用	引分け用
枠	上レール	1	1
	前面カバー	1	1
	下地材	1	1
部品セット	片引き用	1	—
	引分け用	—	1

## ■化粧縁セット一覧表

名称	片面	両面
化粧縁(縦)(モヘア付)	2	2
化粧縁(縦)	—	2
化粧縁(横)	1	2
調整部材	1	1
板材(縦)	—	2
板材(横)	—	1
ポリネートチューブ	—	2

## ■部品セット一覧表

### 【片引き用部品セット】

名称	入数
上部ストッパー取付け用(ナベタッピンねじφ4×45)	6本
上レール取付け用(ナベ小ねじM4×12)	14本
下地材取付け用(DN65ねじφ3.8×65)	9本
ガイドピンセット	1セット
吊車	2個
上部ストッパー	2個
下部ストッパーL/R	L/R各1個
端部キャップL/R	L/R各1個

### 【引分け用部品セット】

### 【引分け用部品セット】

名称	入数
上部ストッパー取付け用(ナベタッピンねじφ4×45)	6本
上レール取付け用(ナベ小ねじM4×12)	21本
下地材取付け用(DN65ねじφ3.8×65)	13本
ガイドピンセット	2セット
吊車	4個
上部ストッパー	2個
下部ストッパーL/R	L/R各1個
端部キャップL/R	L/R各1個

### 【引戸錠セット】

名称	入数
サムターン本体	1個
サムターン取付け用(皿小ねじM3×10)	2本

### 【錠受けセット】

名称	入数
錠受けケース	1個
引戸錠受け	1個
引戸錠受け取付けねじ(皿タッピンねじφ3.5×50)	2本
錠受けケース取付けねじ(皿タッピンねじφ4×50)	2本

## ■据付け前の準備

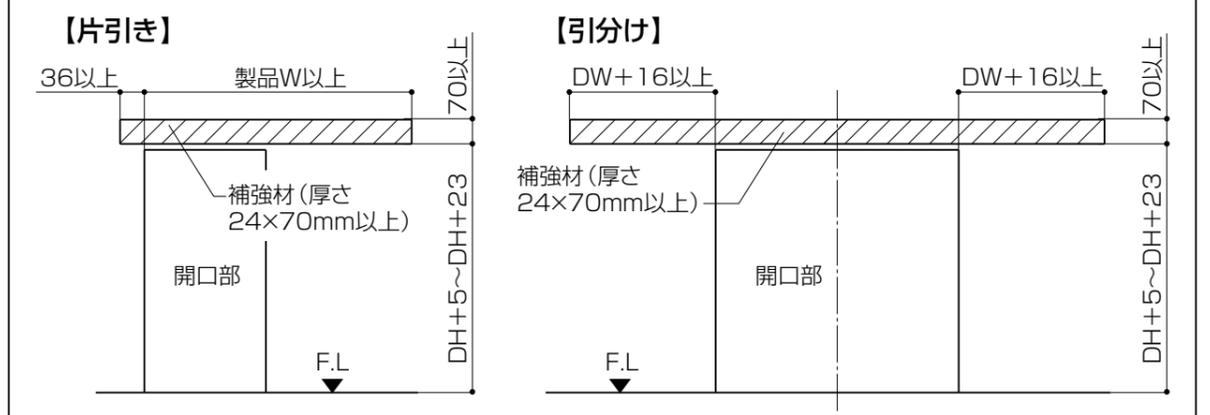
### 1 開口部の作成

①下地材取付け用の補強材(躯体)を右図に従って入れてください。

#### ▲注意

- 指定の位置に、厚さ24×70mm以上の硬木の補強材(躯体)を設置してください。
- 補強材(躯体)には、虫食い・くされなどのないものを使用してください。
- 補強材(躯体)は、必ず柱・間柱に釘などで固定してください。

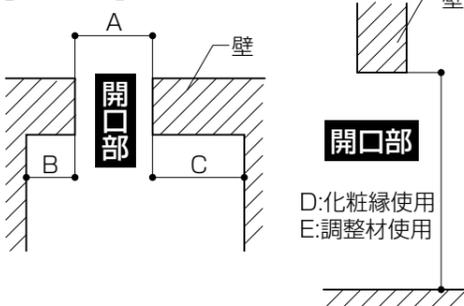
### ■補強材(躯体)取付け位置



②開口部を、取付け範囲(a~c)に従って作成してください。

### ■取付け範囲

#### 【片引き】



#### a) 化粧縁片面セット使用時

	W	DW	A	B	C
W13	1334	651	631以下	38以上	665以上
W16	1654	811	791以下	38以上	825以上
W18	1834	901	881以下	38以上	915以上

※A+C+38≥Wを満たすこと。

	D	E
H20	1952以下	1977
H23	2218以下	2243

#### b) 化粧縁両面セット使用時

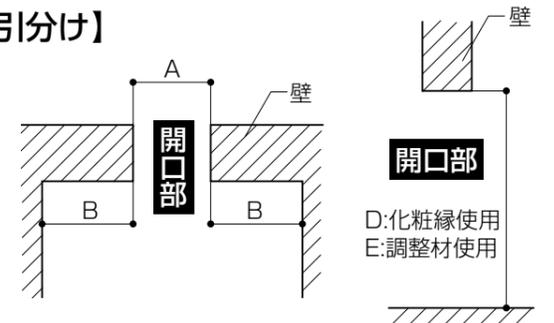
(板材を使用しない場合は、aと同じ範囲です。)

	W	DW	A	B	C
W13	1334	651	637以下	35以上	662以上
W16	1654	811	797以下	35以上	822以上
W18	1834	901	887以下	35以上	912以上

※A+C+35≥Wを満たすこと。

	D	E
H20	1955以下	1980

#### 【引分け】



#### c) 化粧縁片面セット使用時

	A	B
W34	1687以下	872以上

※A+2B≥3431を満たすこと。

	D	E
H23	2218以下	2243

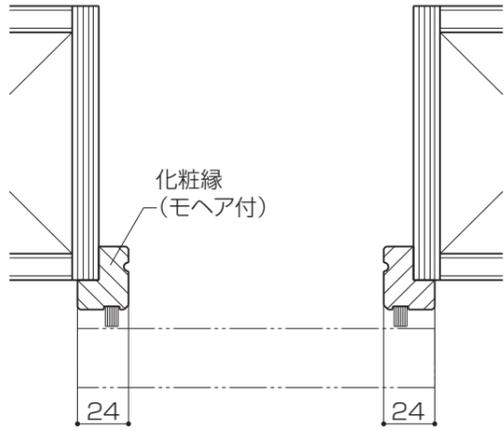
#### お願い

※開口寸法は、壁を仕上げた状態の寸法としてください。

## ■据付け前の準備

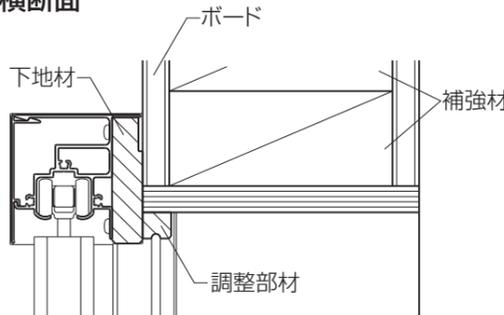
### ■化粧縁片面セット使用納まり例

●横断面  
見付け幅:24mm



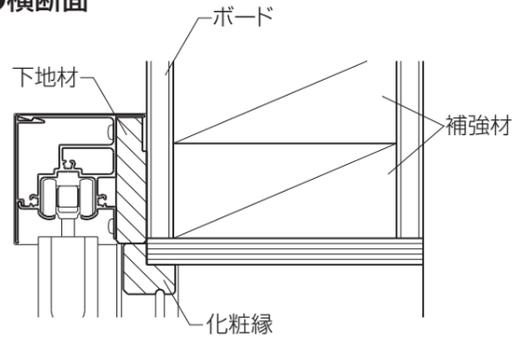
### 【上部化粧縁使用納まり例】

●横断面



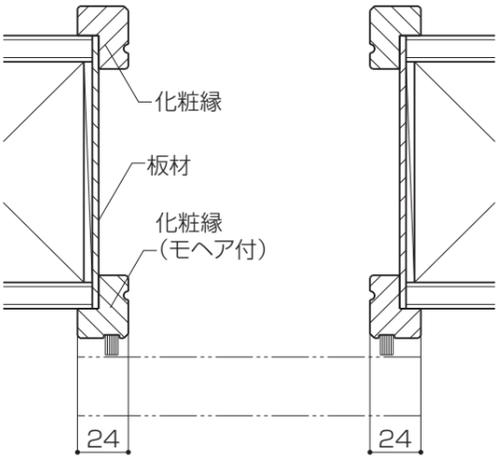
### 【上部調整部材使用納まり例】

●横断面



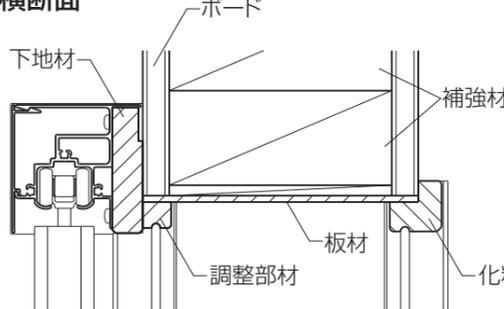
### ■化粧縁両面セット使用納まり例

●横断面  
見付け幅:24mm



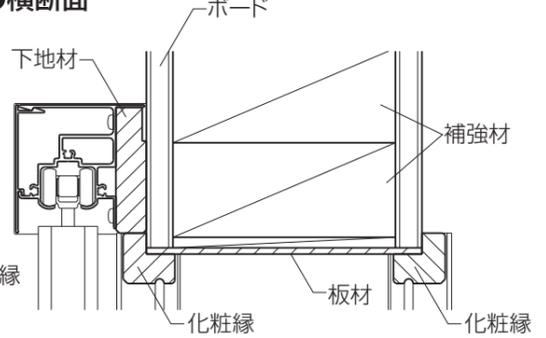
### 【上部化粧縁使用納まり例】

●横断面



### 【上部調整部材使用納まり例】

●横断面



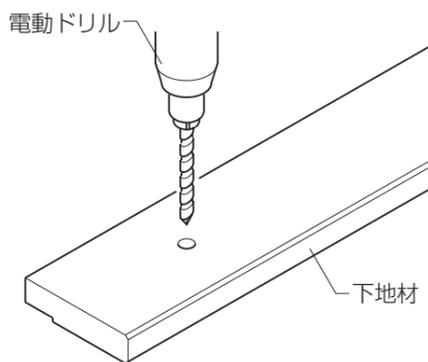
## ■取付け順序

### 1 枠の取付け

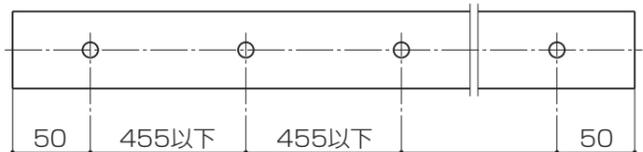
①下地材にφ3の下穴(貫通穴)をあけます。

#### ▲注意

- 必ず下地材に下穴をあけてから、ねじを固定してください。
- 下穴は、端部から50mmの位置に1個所ずつあけ、中間部のピッチは、455mm以下としてください。



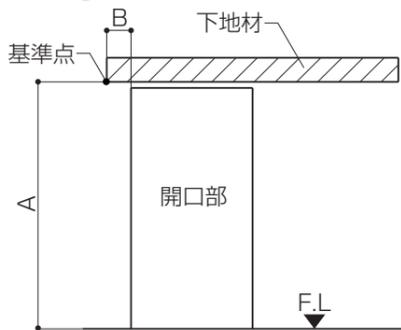
### ■下地材下穴ピッチ



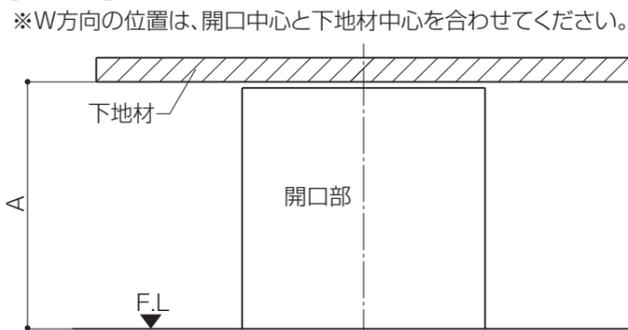
②下地材を指定の取付け位置に、同梱の固定ねじ(DN65ねじφ3.8×65)で水平に取付けてください。

### ■下地材取付け位置

#### 【片引き】

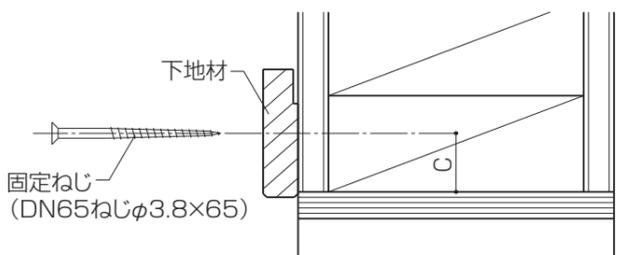


#### 【引分け】



呼称	A	納まり	B
H20	1962.5	化粧縁片面	35
H23	2228.5	化粧縁両面	32
H特注時	DH+5		

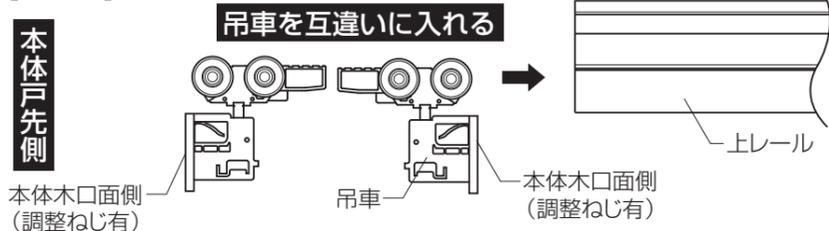
※上記のB寸法は、化粧縁と本体戸先側のかかり寸法が24mm(推奨値)の場合です。戸先側のかかり寸法は、17mm~24mmの間で調整できます。



※C寸法は、8mm以上確保してください。8mm以上確保できない場合は、固定ねじを斜めに打込むなどして補強材に固定してください。

③吊車をレールに入れてください。

#### 【片引き】



#### 【引分け】



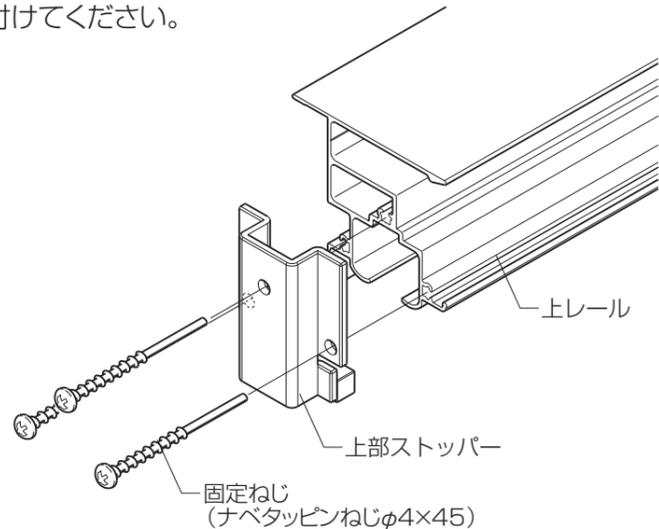
吊車を互違いに入れる

吊車を互違いに入れる

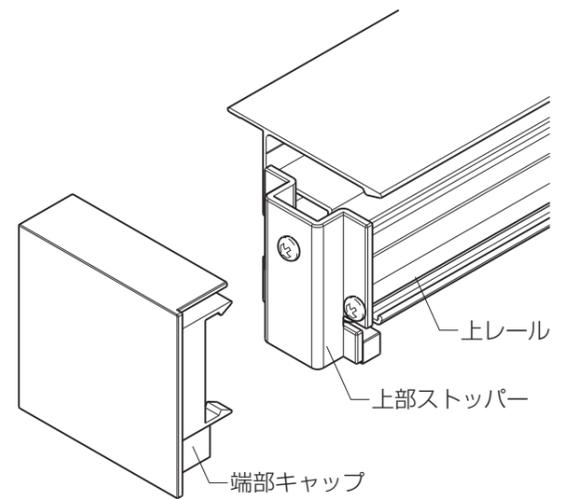
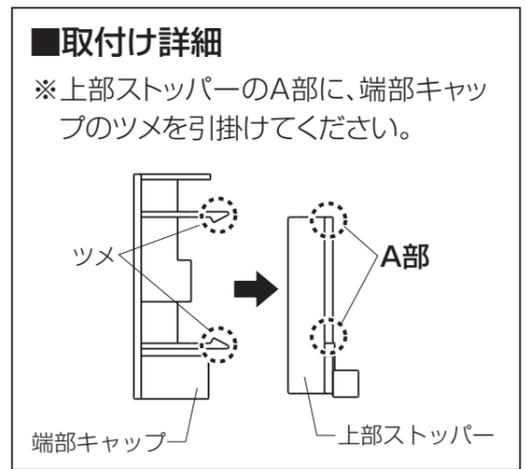
#### お願い

- ※下地材固定ねじの頭は、下地材表面からとび出さないように取付けてください。レールが正しく取付けられなくなります。
- ※下地材は水平に取付けてください。水平に取付けていない場合、本体が自然に開閉する原因となります。

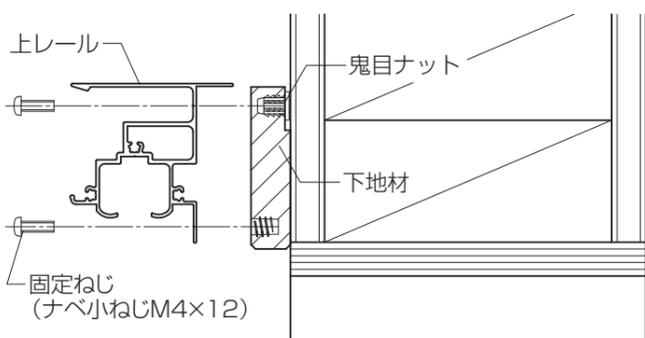
- ④上レール両端に、上部ストッパーを同梱の固定ねじ(ナベタッピンねじφ4×45)で取付けてください。



- ⑤上部ストッパー取付け後に、端部キャップをはめ込みます。



- ⑥上レールを下地材に取付け済みの鬼目ナット位置に合わせて、同梱のねじ(ナベ小ねじM4×12)で取付けます。



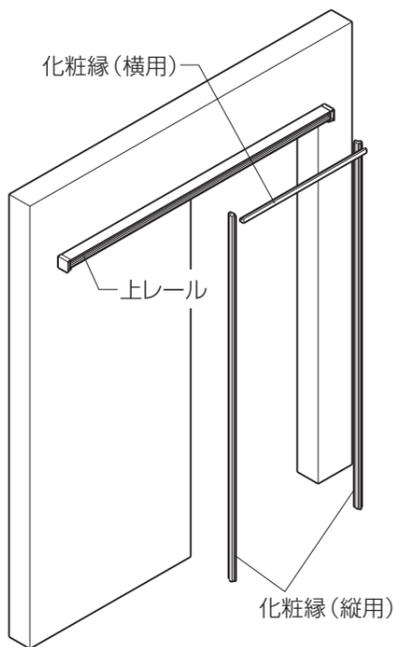
**■枠を現場で切断して使用する場合**  
 ※枠は両端から150mmずつ、合計300mm切断することができます。下地材・上レールを切断する場合は、片側の切断寸法を同寸法にしてください。引分けの場合は、両端からの切断寸法を同じにしてください。

レール	○	○
端部	36	80

※片引き用には、上レールにブレーキが付いています。必ず外してから切断してください。切断後、下記位置にφ3の穴をあけて再度ブレーキを取付けてください。

**2 化粧縁の取付け**

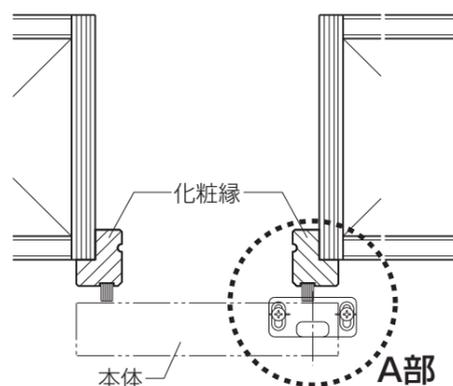
- ①化粧縁材を現場寸法に合わせて切断します。  
 ②化粧縁材の裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、専用のかくし釘で固定します。  
 ※かくし釘のピッチは、200~300mmです。  
 ※化粧縁材の取付け面は、接着剤がつくように仕上げてください。



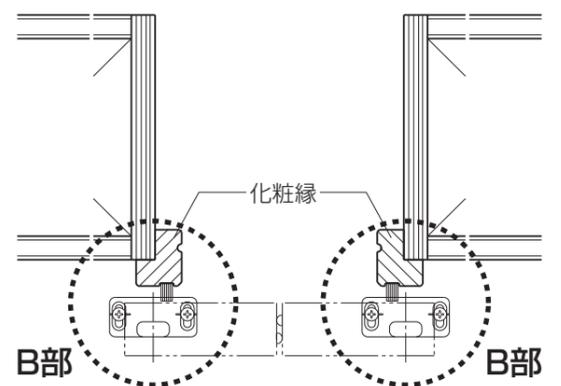
**3 ガイドピンの取付け**

- ガイドピンを枠に同梱のねじ(皿タッピンねじφ3.5×20)で固定します。  
 ※タイプにより取付け位置が異なります。必ず下図を参照してください。  
 ※本体の開閉操作に影響が出ますので、A・B部詳細図を参照してください。  
 ●図の位置および、向きにガイドピンを置き、ガイドピンの長穴(2箇所)の凸部(ライン)の位置にねじ止めしてください。

**■片引きの場合**



**■引分けの場合**



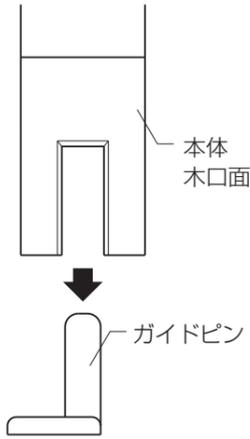
**■両面化粧縁の場合**  
 ※板材を開口部に取付けた後、化粧縁材を取付けてください。  
 ※板材の開口部への取付けは、裏面(〜面)に接着剤を塗布して固定してください。又、板材への化粧縁材の固定用接着剤は、同梱のポリネートチューブを使用してください。

●横断面図      ●縦断面図

**■A部詳細図      ■B部詳細図**

#### 4 本体の吊込み

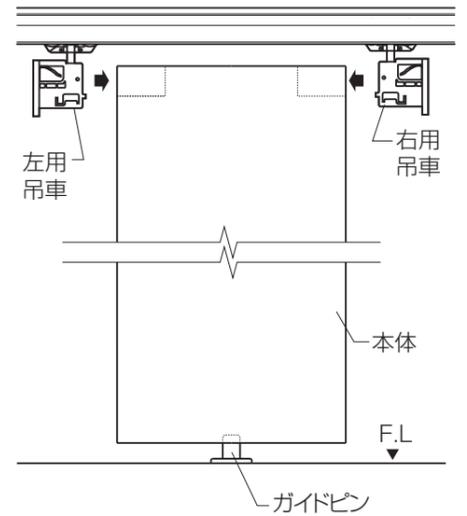
- ①本体を持上げて、本体下部の溝にガイドピンを入れます。



- ②片側ずつ吊車を本体に水平に押し込むと、ワンタッチで取付けられます。  
※吊車の凸部を本体上部溝の凹部に合わせて差込みます。

#### ▲注意

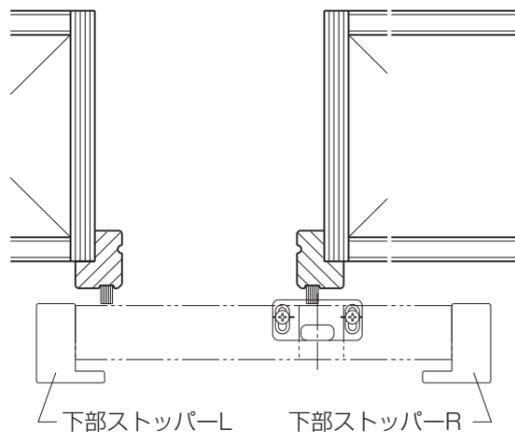
- 吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押し込んでください。押し込み後、引張って抜けないことを確認してください。押し込みが足りないと、本体が落下するおそれがあります。



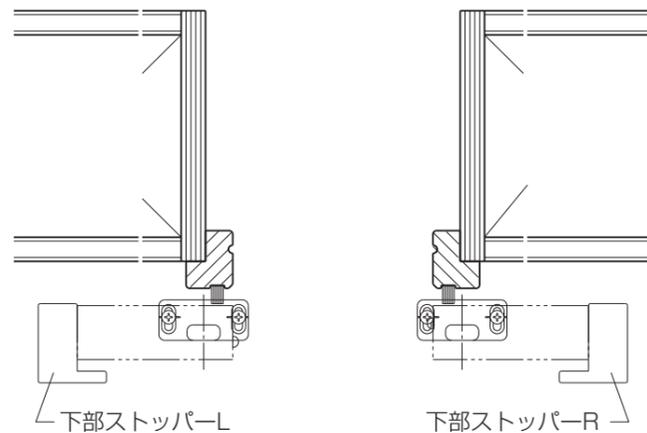
#### 5 下部ストッパーの取付け

- 下部ストッパーを同梱のねじ(バインドタッピンねじφ4×30)で固定します。

##### ■片引きの場合

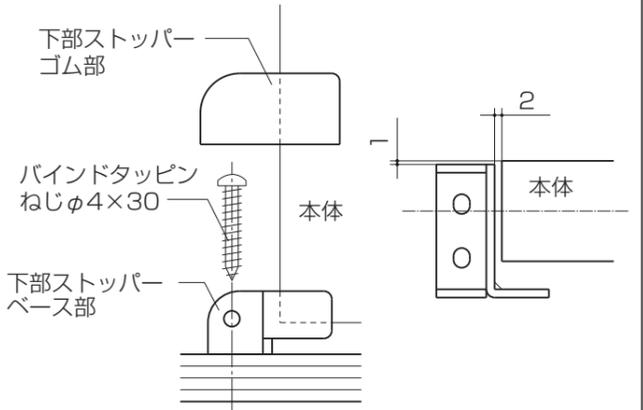


##### ■引分けの場合



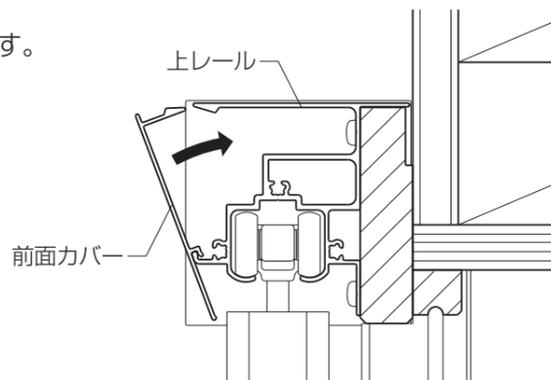
##### ■取付け詳細

- ※下部ストッパーベース部を床面に取付け後、下部ストッパーゴム部をベース部にかぶせます。



#### 6 前面カバーの取付け

- 前面カバーを上レールにはめ込みます。



#### ■本体の建付け調整

##### 1 本体の建付け調整

- 本体の吊車には、上下方向および前後方向の調整機能が付いています。

##### ① 上下調整 (調整幅+4mm、-1mm)

- プラスドライバーで吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が下がり、左に回すと本体が上がります。

※床面と本体下部とのチリ寸法は、8mmが標準です。

※本体を下げ過ぎるとガイドピンベース部と本体が当たりますので、下げ過ぎないでください。

##### ② 前後調整 (調整幅±2mm)

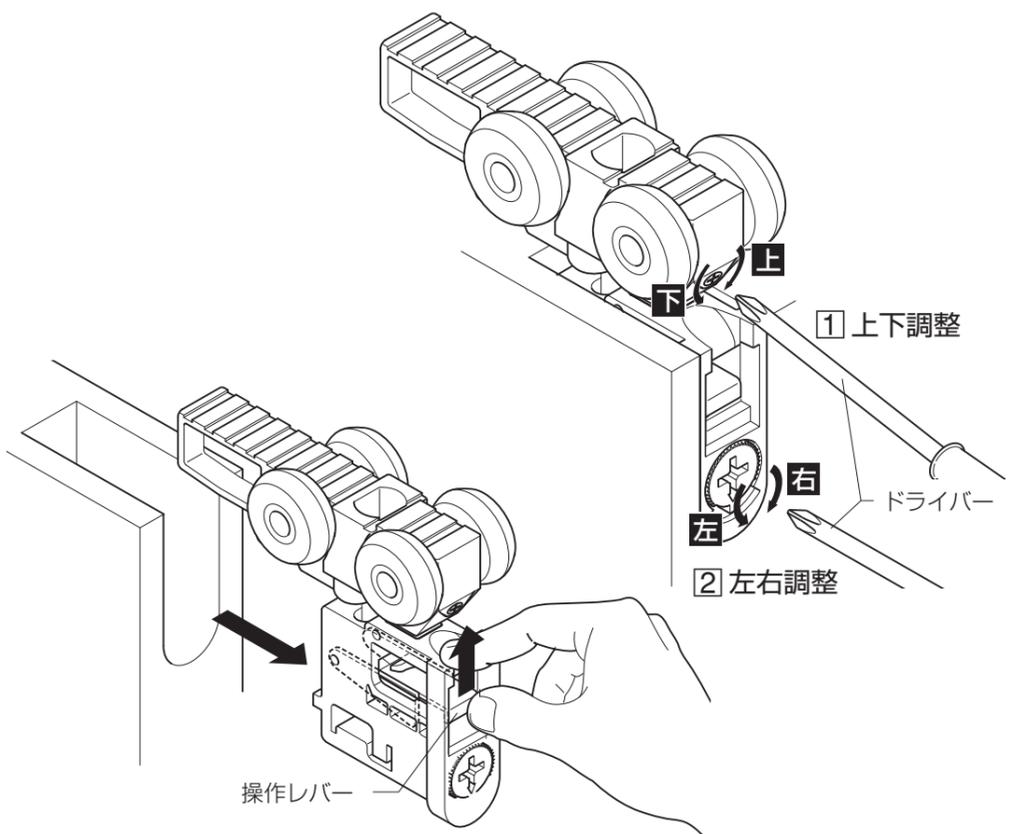
- 前後調整は片引きの場合、化粧縁と本体のチリが大きい(小さい)場合(標準チリ9mm)に実施してください。プラスドライバーで吊車下部の調整ねじを左に回すと本体が右へ動き、右に回すと本体が左に動きます。

※前後調整した場合は、本体が常に垂直になるようにガイドピンの調整をしてください。調整しないと開閉操作が重くなる場合があります。

##### ■本体の取外し方法

- 本体を手で支えてから吊車の操作レバーを指でつまみ、上に押し上げます。次に吊車を本体の内部ケースより引抜き、取外します。

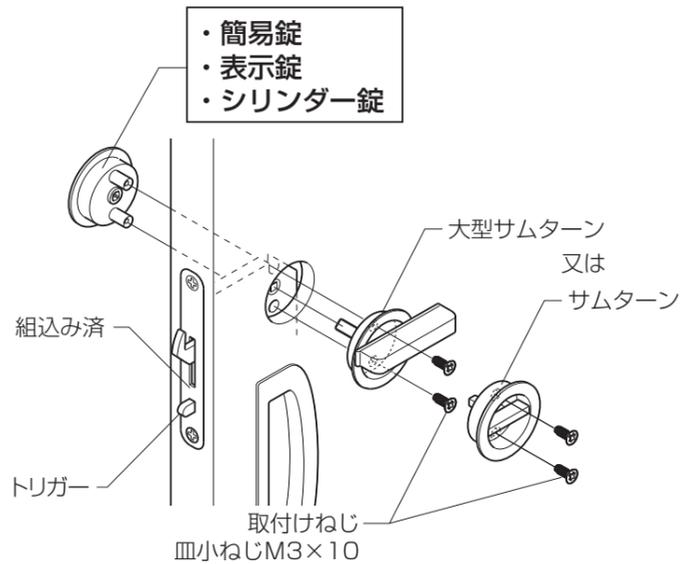
※取外しがやりにくい場合は、マイナスドライバーなどを使用して操作レバーを押し上げながら引抜いてください。



## ■本体の建付け調整

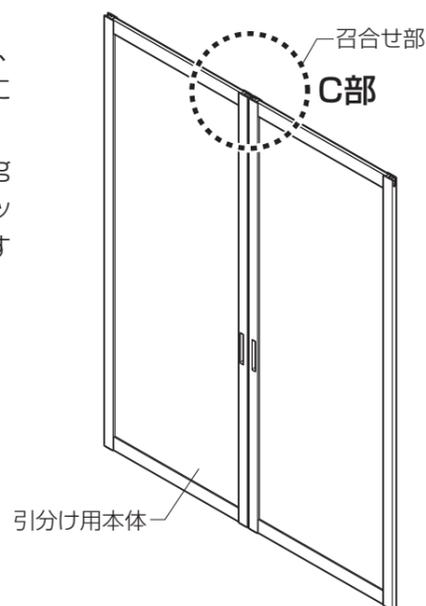
### ■引戸錠の取付け

- 別売りの錠を右図のように組立ててください。
- ※取付けねじを締めるときに、いったんトリガーを押えて閉状態にしてから取付けてください。大型サムターンの場合は、ツマミを水平状態にしてから取付けてください。
- ※大型サムターンは表示錠のみの設定になります。



### ■2 召合せパッキンの取付け

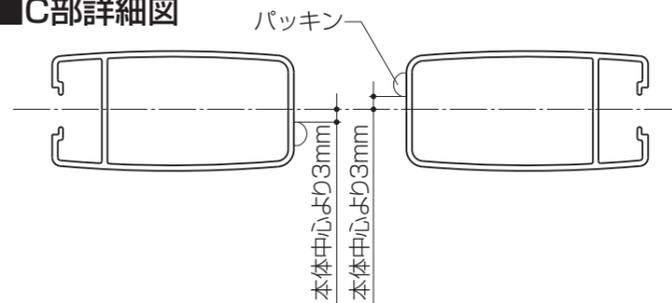
- 本体の吊込み・建付け調整を行った後、引分け用本体の召合せ部に、本体と同梱のパッキンを取付けます。
- パッキン裏面のシートをはがし、5kg程度の力で押し張ります。パッキンは、長めのものを同梱していますので、現場でカットしてください。



#### お願い

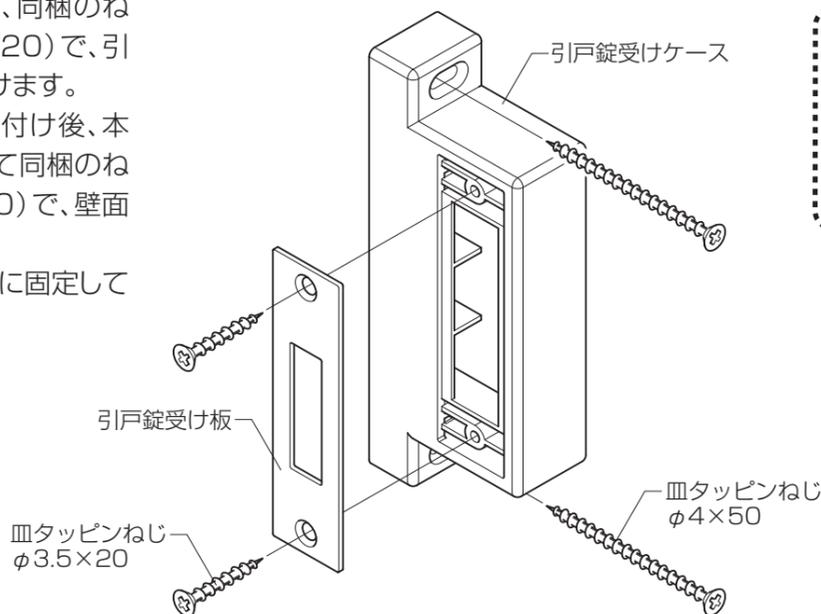
- ※パッキンは、必ず本体を吊込んで、建付け調整を行ってから張付けてください。
- ※パッキンは、張付け面のほこり・汚れ・油分などを取除いてから張付けてください。

#### ■C部詳細図



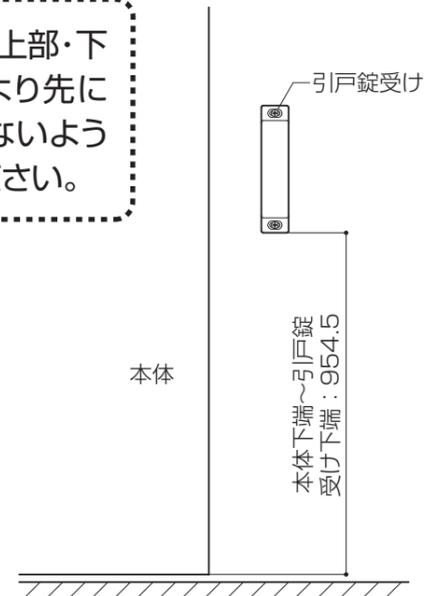
### ■引戸錠受けの取付け

- ① 枠の左右勝手に合わせて、同梱のねじ(皿タッピンねじφ3.5×20)で、引戸錠受けをケースに取付けます。
  - ② 引戸錠受けをケースに取付け後、本体引戸錠の位置に合わせて同梱のねじ(皿タッピンねじφ4×50)で、壁面に取付けます。
- ※取付けねじは、柱又は間柱に固定してください。



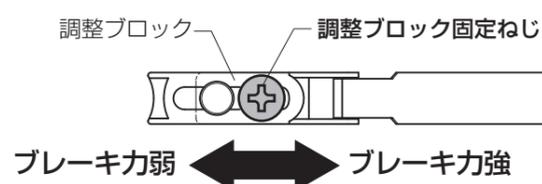
#### お願い

- ※引戸錠受けは、上部・下部ストッパーより先に本体が当たらないように取付けてください。



### 【ブレーキ力調整】

- 上レール内側に付いているブレーキ部品の調整ブロック固定ねじを2回転までゆるめ、調整ブロックをスライドさせて、ブレーキ力を調整してください。調整後は、固定ねじを締めてください。

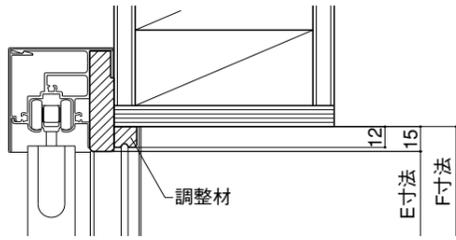




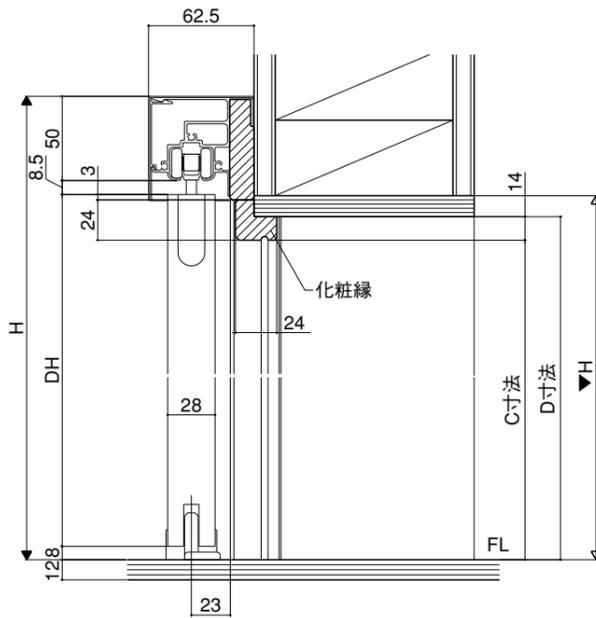
【引分け戸 納まり図(片面化粧縁24mm納まり)】

■縦断面図

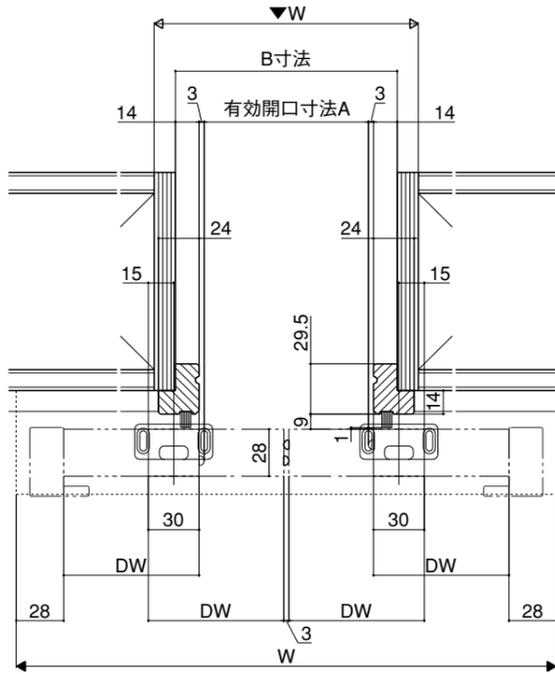
(上部調整材納まり)



(上部化粧縁納まり)



■横断面図



W呼称(枠外寸法)	A寸法	B寸法
W34 (3431)	1653	1687

H呼称(枠外寸法)	C寸法	D寸法	E寸法	F寸法
H23 (2290)	2204.5	2218.5	2228.5	2243.5